企画協力
DRF

第4回　SPARC Japanセミナー

研究助成機関が刊行するオープンアクセス誌

市原瑞基（DRF, 宮崎大学附属図書館）- オープンアクセス出版の動向

Mark Patterson,
Managing executive editor, eLife

講演：マーク・パターソン（eLife）

“eLife - a researcher-led, open-access journal for life and biomedical science”

＜パネル・ディスカッション＞

マーク・パターソン
斎藤博久（国立成育医療研究センター）
小島陽介（カルガー・ジャパン）
内島秀樹（DRF, 筑波大学附属図書館）
土屋俊（大学評価・学位授与機構）

司会進行　谷本千栄（DRF, 神戸市外国語大学学術情報センター）

平成24年8月23日（木）13:30-17:00

国立情報学研究所・講義室

千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センタービル20階

※参加申込方法・申込先については裏面をご覧ください。演題は変更になることがあります。

2003年、ブダペストオープンアクセスイニシャチブ(BOAI)はオープンアクセス実現のためのふたつの方策を提案しました。ひとつは、研究者が執筆論文をみずからインターネット公開する「セルフ・アーカイビング」です。 大学・研究機関が設置する機関リポジトリや、PubMed Central等の政府系アーカイブなどの形で発展してきています。もうひとつは、無料で利用できる電子ジャーナルを創刊し、そこに論文発表を行うというものです。そうした電子ジャーナルは「オープンアクセスジャーナル」と呼ばれ、現在世界で約8,000誌を数えます(スウェーデン・ルンド大学調べ)。

オープンアクセスジャーナルの出版には、商業出版社も参入し、近年では「オープンアクセスメガジャーナル」と呼ばれる従来の学術雑誌とは異質のメディアも生まれてきています。こうした電子学術情報流通環境の急速な展開の下で、今後、学術コミュニケーションの姿はどう変わっていくのでしょうか。

今回のSPARC Japanセミナーでは、今冬に創刊されるeLife誌編集長のMark Patterson氏をお招きします。eLifeは、世界有数の研究助成機関である、英国:ウェルカム・トラスト、米国:ハワード・ヒューズ医学研究所(HHMI)、ドイツ:マックス・プランク協会の3団体が合同で刊行する生命科学分野のオープンアクセスジャーナルで、論文出版加工料(Article Processing Charge(APC))は当面の間無料とされています。本セミナーでは、研究助成団体による学術出版にフォーカスし、オープンアクセス出版の現在と未来について議論を深めます。多くのみなさまのご来場をお待ちします。

＜参加申込方法＞

本セミナーはどなたでも無料で参加できます。参加を希望する方は、氏名 ・所属 ・連絡先を明記のうえ、【第4回SPARCセミナー参加申込】と題して、電子メールまたはFAXでお申込ください。折り返し、【受付票】を返送しますので、当日ご持参ください。ご連絡いただいた個人情報は、今後のセミナーのご案内と開催変更等の緊急連絡に使用いたしますのでご了承ください。

お申込・お問合せ先:
国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課図書館連携チームSPARC担当
電子メール: co_sparc_all@nii.ac.jp　　FAX: 03-4212-2375

主催:SPARC Japan(国立情報学研究所)　企画協力:デジタルリポジトリ連合(DRF)